

令和8年度公開臨海・臨湖・センター実習 実施計画書

実習タイトル	臨湖実習②【リモート形式】（茨城大学・信州大学合同臨湖実習） （比較湖沼学実習）さまざまな湖沼で環境計測・生物調査をしてみよう		
<p><実習内容></p> <p>現在の日本の湖沼では、人間活動の結果としての水質悪化、外来種の侵入、有毒化学物質、ネオニコチノイド系農薬、マイクロプラスチック等の流入とそれらの残留物質、福島第一原発事故を原因とする放射性物質の蓄積など、実に多くの水環境問題に直面している。これらの環境問題が生物群集におよぼす影響評価を行うためには、湖沼の環境要因や生物群集に関するデータの蓄積が必要不可欠である。では実際にこのようなデータはどのようにして取られているのだろうか？本実習では、特殊な分析機器を用いた環境計測や生物調査を行い、分析法や得られたデータの解析法を学ぶ。また、日本第2位の面積を誇る茨城県の霞ヶ浦（過栄養湖）、長野県の諏訪湖（富栄養湖）、木崎湖（中栄養湖）など、様々な栄養状態の湖の水試料を実際に測定し、比較湖沼学的観点から日本の湖の現状を理解する。</p> <p><実習項目（本実習はZoomによるリモート形式で実施 ※一部対面【茨城大】での参加も可能）></p> <p>8月24日（リモート）：日本の湖沼における今日的水環境問題に関する最新のトピックス</p> <p>8月25日（リモート）：霞ヶ浦・諏訪湖・木崎湖における水質測定・生物調査の様子</p> <p>8月26日（リモート）：上記湖水の水質分析と生物観察（分光光度計によるクロロフィルa濃度測定、パックテストによる各種窒素・リン濃度の測定【自宅に試料を郵送するので各自で分析】、ICP発光分光分析装置を用いた湖水中の各種金属分析、プランクトン・底生動物の観察）</p> <p>8月27日（リモートと対面のハイブリット）：ゲルマニウム半導体検出器を用いた底泥・魚類等の放射性セシウム濃度測定、霞ヶ浦における物理環境と実地調査</p> <p>8月28日（リモート）：総合討論</p>			
実習内容キーワード	霞ヶ浦、諏訪湖、木崎湖、比較湖沼学、水質分析、野外調査		
担当教員氏名・所属・役職名	宮原裕一（教授）・笠原里恵（助教）・岩木真穂（特任助教） 信州大学 理学部 中里亮治（准教授）・増永英治（講師）・金子誠也（助教） 茨城大学地球・地域環境共創機構(GLEC)		
協力教員氏名・所属・役職名	荻部甚一（講師）近畿大学 工学部		
対象学生・学年	学部生 (院生も可)	開講期間	2026年8月24日（月）～ 8月28日（金）
開講大学・施設名	茨城大学 GLEC・水圏環境フィールドステーション 信州大学 理学部附属湖沼高地教育研究センター 諏訪臨湖実験所		
施設の住所	〒392-0027 長野県諏訪市湖岸通り5-2-4		
電話	0266-52-1955	Fax	0266-57-1341
e-mail	miyabar@shinshu-u.ac.jp	Web Site	https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/science/kosyokochi/
交通案内	Zoomによるリモート形式で実施（8月27日のみ茨城大にて対面での参加も可能）。		
費用	オンライン実習のため一切の費用負担なし。一部対面での参加を希望する者は食費で約1,000円前後。宿泊が必要な場合は事前に別途相談		
授業科目名	臨湖実習II		
単位数	1	定員数	30
授業料の徴収について	なし※公私立大学の学生には、単位認定を行わないかわりに受講証明書を発行します。		
受講生選抜基準と申し込み締め切り	本実習は茨城大学との合同臨湖実習であり、茨城大学の「公開臨湖実習5「さまざまな湖沼で環境計測・生物調査をしてみよう」と同じ内容です。今年度の申し込みは茨城大学で受け付けます。締め切り：6月30日（火）		
選抜結果連絡法	茨城大学から所属大学学務へ郵送、申し込み学生へはE-mailで通知。		